



Top Commitment

TDKらしい「創造」でさらなる飛躍を遂げ、社会へ新たな価値を提供し続けます。

TDK株式会社 代表取締役社長

石黒 成直

創業100周年に向け新たなスタート

2015年度、TDKは創業80周年という大きな節目を迎え、さらなる飛躍に向けた新しいスタートを切りました。初めて売上高1兆円を超えた2014年度に続き、2015年度も売上高は過去最高となり、安定成長に向けた確かな軌跡を描いていくことができました。

2016年6月に代表取締役に就任した今、私の使命はTDKの新たな成長戦略の道筋をつけ、着実に成果を上げていくことと認識しています。目指すべき方向性の明示や、経営資源の適切な配分が経営者としての大きな責務ですが、それだけでは十分とはいえません。戦略を実行するため、従業員一人ひとりが腑に落ちるまで具体的な施策にブレークダウンしていくことが不可欠です。対話を重ね、現場レベルにまで確実に計画を落とし込み、変革のエネルギーとしていきます。

TDKは、「社会が次に何を必要とするか」を想像力豊かに考え続け、常に時代のニーズを先取りしてきた会社です。環境変化のスピードは確実に増しており、変わり続ける市場への対応は容易ではありませんが、常に変化の中にチャンスがあります。短期的な利益の確保ではなく、中長期的視点からTDKの企業価値向上に取り組んでいきます。

創業100周年という次の節目に向けて歩み出すため、2015年には企業ビジョンと行動指針を策定し、TDKが進むべき方向を明らかにしました。これらをグループ会社の全従業員がしっかりと共有することで「創造によって文化、産業に貢献する」という社是を実践していきます。

企業ビジョン Vision2035

TDKは1935年、「日本独自の磁性材料フェライトを工業化し、社会の発展に貢献したい」という創業者の夢と信念から発祥した会社です。これまで世界に誇る四大イノベーション（フェライト素材・磁気テープ・積層部品・磁気ヘッド）を確立し、社会の発展を支える製品を創造し続けてきました。これからも、さらなるイノベーションの創出に挑戦する企業として、多種多様なグローバル経営資源を活かし、高品質な製品・サービスの提供を通してお客様の価値創造に貢献し続けます。「かけがえのない地球環境の再生・保護と、豊かで安心できる暮らしの実現」、このテーマに真正面から取り組むことで、「創造によって文化、産業に貢献する」を着実に果たしてまいります。

行動指針

お客様視点	私たちにはある。 ・お客様の理想実現に役立とうとする強い意志。 ・常にお客様に信頼される存在でありたいという熱意。 だから私たちにはできる。 ・感動を提供するための、お客様の立場にたった行動。 ・お客様を満足させられるサービス・品質・技術を提供するための妥協なき行動。	成長	私たちにはある。 ・常に自分自身の成長を求め続ける向上心。 ・社会の発展、企業の成長へ自ら積極的に寄与する意欲。 だから私たちにはできる。 ・常に"夢・ありたい姿"を思い描き、実現のための努力を続けること。 ・部下/後輩/同僚の成長を積極的に支援し、活力に満ちたチームを築き上げること。
	私たちにはある。 ・動いた結果の失敗を成長の糧とする風土。 ・困難を乗り越えて最後までやり抜こうとする意欲。 だから私たちにはできる。 ・今に留まることなく新しい価値を生み出す挑戦。 ・周囲を共感させ、巻き込んで動かす行動。		私たちにはある。 ・世界中に持つ多様な文化と人財。 ・常に仲間を尊重し、互いに高めあう積極的なチームワーク。 だから私たちにはできる。 ・異なる考え方にこそ価値を認めること。 ・組織や個人間の対立を恐れず、誠意をもって意見をぶつけ合うこと。

強みを活かし、品質を追求したモノづくり

自動車の電装化をはじめ、日常生活のあらゆる機能が搭載されるスマートフォンやIoT(モノのインターネット化)の進展、現実味を帯びてくるロボット社会など、電子部品が貢献できる場は広がり続けています。2017年度までの中期経営方針(P3参照)では、「自動車」「ICT」「産業機器・エネルギー」というこれまでの重点3市場を引き継ぎながらも、特に自動車向け売上高比率について30%までの拡大を目指しています。自動車向け部品は、HDDヘッドの技術で蓄積してきた磁気センサやエネルギーユニットなど、TDKの強みを活かせる分野であり、独自性ある製品でニーズを捉え、自動車の燃費向上や快適走行を支えています。

加えた「TDKインダストリ4.5」によるモノづくり改革を進めていますが、この考え方は各拠点でかなり浸透してきていることを感じます。

中期経営方針の中でこれをさらに徹底し、秋田県で操業するモデル工場においてTDKとしてあるべきモノづくりの姿を見極め、基幹技術を確立した上で横展開していきます。それを通し、世界のどの拠点で生産しても同じ高品質を保証する「ロケーションフリー」の実現を目指します。

※生産工程のデジタル化・自動化・バーチャル化によりモノづくりを進化させる、ドイツ政府が推進するプロジェクト。

また、CSRの重要テーマの一つとしても「ゼロディフェクト品質」の追求を定めるように、品質はメーカーの命といえます。生命に関わる領域で電子部品の活用も増えているため、安全・安心への要求に確実に応えていかなければなりません。2015年度より、生産効率化のための「インダストリ4.0※」に品質の視点を

TDK株式会社 代表取締役会長

上釜 健宏



中期経営方針

基本方針

グループの連携を進化させ、更なる成長を実現する

重点方針

- 1 高い技術力に基づく「ゼロディフェクト品質」の追求
- 2 スピード経営による「真のグローバル化」の推進
- 3 主要3セグメントに続く新規事業で売上1,000億円超の創出
- 4 風土改革を実行し失敗を恐れない文化の醸成

多様性を製品・サービスの革新につなげる力

TDKの80年の歴史は、磁性技術を軸に5つのコアテクノロジーを組み合わせ、その応用と発展を繰り返しながら、時代が求める製品・サービスを送り出し続けてきた歩みそのものです。そうした基本姿勢は今後変わりません。

大切なのはTDKのDNAを重視した事業展開であり、今まで培ってきた技術やノウハウ、お客様とのつながりといった資産を最大限に活かしていきます。また、コアテクノロジー間のシナジーを活かし、複数の分野にまたがる交点の技術をいかに伸ばしていくかが肝となります。

さらに、グループが持つものと持たないものを明確化し、強みと弱みを見極めた改革の推進も重要です。2015年度にはM&Aや合併事業を意欲的に進めてきましたが、市場ニーズに照らし合わせて私たちに足りないものを迅速に補うため、今後もこれを継続していきます。

行動指針の一つとして「多様性の尊重」を掲げるように、創業100周年を迎える2035年には、さまざまな異なる価値観を許容した一層の多様化が進んでいくべきです。そしてこの「多様性」は、国籍や人種、性別などの枠を超えて、優れた人材が活躍する職場とい

う狭義のものに留まらず、パートナー企業やM&Aにより新たにグループに加わった企業も含めた「多様性」を意味しています。

TDKは、外部の文化を積極的に取り入れることで成長を遂げてきました。買収した企業に主体性を持って事業をリードしてもらうことで、新たな可能性を拓いてきたのです。多様性を受け入れ、それを製品・サービスの革新につなげてきた企業風土は、今も私たちの大きな強みとなっています。

従業員一人ひとりをTDKの主役として

「創造によって文化、産業に貢献する」を社是に掲げるTDKグループの永遠の使命は、世の中の役に立つ製品・サービスをタイムリーに提供することです。その原動力は、未来への明るい夢を描き、失敗を恐れず挑戦し続ける従業員一人ひとりであり、TDKの主役は従業員にほかなりません。

人材を最大の資産とする企業であるからこそ、その活躍を促すための仕組みづくりを極めて重視します。一人ひとりに寄せる期待を明確に伝えるとともに、「人づくり」への多面的な投資を行い、成長を支えていくことが欠かせません。従業員が当事者意識を持ち、日々いきいきと仕事に励めるよう、経営者としての責任を全うしていきます。

また、海外売上高比率が9割を超え、世界各地に拠点を持つグローバル企業として、事業を通して地域社会に貢献していくことも重要です。時代が移り変わる中で地域の発展を見つめ、今どのような要請を受けているかという視点から、それぞれの拠点のあり方や地域社会との関係性を絶えず見直していきます。

多様なステークホルダーの皆様との関わりの中、私たちはグループ全社で意識を合わせ、TDKらしさを発揮し、社会へのより大きな価値提供を目指し続けます。皆様からは、忌憚ないご意見をいただければ幸いです。